

アジアゾウ飼育における床材としてのおが粉の使用について

○古田洋 佐藤英雄 飯野雄治 小川直子 藤澤加悦
櫻堂由希子 栗原暖佳（横浜市立よこはま動物園）

2018年3月14日、アジアゾウのシュリー（メス、23歳）の寝室におが粉（おがくずを細かく粉砕したもの）を敷き詰めた。それまでのゾウの寝室の床は衛生的に保つためにコンクリートだったが、近年の報告により、硬い床面はゾウの足や体への負担が大きいたことが明らかとなった（※1）。実際にシュリーの前足には爪の亀裂や、異常な組織増殖が見られたりしたため、おが粉を敷くことで、足の状態の改善や体への負担軽減となることを期待して実施した。まずはシュリーが過ごす2部屋のうちの1室におが粉を導入した。寝室の大きさは630×610cmで、おが粉の流出を防ぐために、寝室の4面に24×12×600（高さ×幅×長さ）cmの角材（米松、防腐処理済）を設置した。おが粉は寝室のほぼ全面に約10～20cmの厚さで敷き詰めた。また既存の排水口にカバーを設置し、尿が排水されるようにした。シュリーは警戒することなくその部屋に入り、夜は毎日おが粉の上で眠るようになった。おが粉導入前後での行動観察の結果、総観察時間に対する各行動割合では、おが粉導入後では、横臥睡眠が増加し（+11.3%）、常同行動は減少した（-9.0%）。おが粉を導入した結果、睡眠の質が改善された可能性はあるが、足への効果はまだ検証できていない。定期的な写真記録などにより客観的に評価できるようにしたい。11月27日には隣室にもおが粉を敷き詰め、シュリーは常におが粉の上で過ごせるようになった。また、雄ゾウの部屋への導入も検討し、環境改善を行っていききたい。

（※1） Miller, M. A., Hogan, J. N., & Meehan, C. L. (2016). Housing and Demographic Risk Factors Impacting Foot and Musculoskeletal Health in African Elephants and Asian Elephants in North American Zoos.